

福岡県大牟田市方言における待遇表現について

中 島 春 花

1. はじめに

九州は全国的に見て方言敬語が発達している地域であり、様々な待遇表現が現在も存在している。待遇表現とは、話し手が聞き手または話題の人物に対して、尊敬、謙譲、丁寧、軽卑などの意味を込めて使用する言語表現のことである。筆者が以前、出身地である大牟田市の近くの市出身の友人と会話した際、筆者が使用した待遇表現について、初めて聞いた表現だと言われたことがあった。近い地域であるのに待遇表現が違うことに興味を持ち、先行研究をあたってみたが、筆者の出身である福岡県内、特に筑後地方における待遇表現の詳しい研究は、管見の限り見受けられなかった。方言に関する待遇表現については現在研究が進められてはいるが、全国の地域ごとの詳細な研究は、まだ十分ではない。そこで、本稿ではこれまで報告がない福岡県大牟田市に現存する、もしくはかつて存在していた待遇表現について調査した。また、方言の使用には、世代においても使用形式の違いが現れることがある。そこで、本稿では世代の異なるインフォーマント6名に調査を行い、その使用形式の違いについても比較していく。

2. 先行研究

ここでは、本稿に関連する先行研究として、藤原（1978）、神部（1992）から、大牟田市域及びその周辺域に存在する尊敬語表現について要約し、述べる。（2.1節）また、熊本県葦北郡芦北町の待遇表現について調査した尾川（2018）について述べる。（2.2節）

2.1 大牟田市域及びその周辺域に存在する尊敬語表現

藤原（1978）、神部（1992）の内容のうち、福岡県大牟田市に関係のある内容を要約し、まとめると、以下のようになる。

○「ナサル」系

「ナサル」はその派生形である「ナハル」「ナス」「ナンス」などを含め、全国的に盛んに用いられている待遇表現である。「ナサル」という言葉は、ある程度の品格を持ちうる言葉であり、地域によって尊敬の度合いは異なるが、おおむね尊敬度の高い待遇表現として用いられている。「ナサル」は、筑後・筑前域など北部に見られ、筑後地方の中でも肥後に近い地域では、「ナサル」形式の派生形である「ナハル」形式が用いられることがある。

例 ヨー キナサッター。(よくいらっしゃいました。)(下線は筆者による。)

○「～ス・ラス」系

「～ス・ラス」は「～シャル・サッシャル」から派生した言葉である。必ずしも最高程度の敬意はなく、どちらかというときやくだけた敬意表現法であり、第三者のことを話す際に使用される形式である。福岡県の筑後地方においては、「～ス・ラス」と「～シャル・サッシャル」の両形式がともによく見られているが、一般的には「ラス」をよく使用している。

例 オッチョ、アゲナ コト ユワース。(おやあ、あんなことを言う！)(下線は筆者による。)

2.2 尾川 (2018)

熊本県南部に位置する葦北郡芦北町について調査がなされている。葦北郡芦北町に在住し、言語形成期を芦北町で過ごした20代から80代のインフォーマント9名を対象に2回にわたり調査を行っている。この論文で行われた調査は、以下の通りである。

【調査1】

斎藤 (1958) 及び、藤原 (1978、1979) とその付録の図版から当該地域、もしくはその周辺に確認される見込みのある待遇表現を抜き出し、筆者の内省を加えたものを表にまとめ、①使用するかどうか②使用方法についての2点をインフォーマントに尋ねている。

【調査2】

調査1の結果を受けて制作した調査票をもとに面接形式で調査を行っている。調査2では主に、インフォーマントに対して各形式を使用しているか尋ねた後、第三者敬語に着目して、聞き手と話題の人物の組み合わせを考えて作った標準語の文を、方言に翻訳してもらっている。

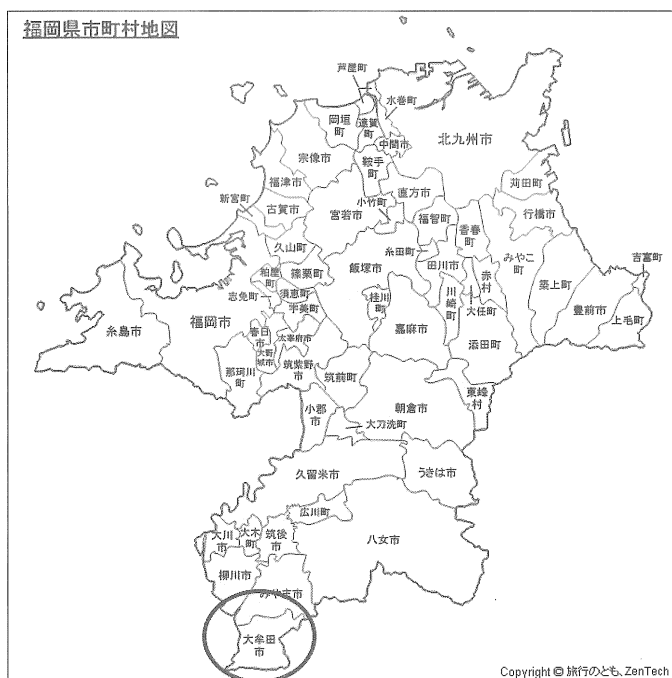
本論文の対象地域である福岡県大牟田市は、一般的に方言の研究報告が少ない福岡県の筑後地方に属している。また、大牟田市は熊本県との県境に位置している市であるため、少なからず熊本県の方言の影響を受けているとも考えられる。本論文では、尾川（2018）が行った調査を参考にし、福岡県大牟田市における待遇表現について考えていく。

3. 調査概要

ここでは、本稿における調査対象地域、調査期間、対象インフォーマントについて述べる。

(1) 調査対象地域

本稿における対象地域である福岡県大牟田市は、福岡県の最南部に位置しており、東に三池山、西に有明海を望む総面積 81.45 平方キロメートル、人口約 12 万人、南と東は熊本県に接しており、福岡県と熊本県の県境に位置するまちである。かつては三池炭鉱で栄えていたが、平成 9 年に閉山し、その影響もあって人口は減少傾向にあり、市全体において高齢化が大きく進んでいる。



地図引用元：「旅行のとも、Zentech」

(https://www.travel-zentech.jp/japan/Fukuoka/Administrative_divisions_map_of_Fukuoka_pref.htm)

(2) 調査期間

平成 30 年 10 月～ 12 月

(3) 対象インフォーマント

福岡県大牟田市出身で 20 年以上居住歴があり、大牟田市で言語形成期を過ごした 6 人をインフォーマントとした。以下の A～F に情報を示す。

A 70 代女性

(0 歳～ 73 歳現在：福岡県大牟田市)

B 50 代男性

(0 歳～ 22 歳：福岡県大牟田市、23 歳～ 24 歳：滋賀県草津市、25 歳～ 55 歳現在：福岡県大牟田市)

C 40 代女性

(0 歳～ 18 歳：福岡県大牟田市、19 歳～ 23 歳：東京都板橋区、24 歳～ 46 歳現在：福岡県大牟田市)

D 40 代女性

(0 歳～ 46 歳現在：福岡県大牟田市)

E 20 代女性

(0 歳～ 22 歳現在：福岡県大牟田市)

F 20 代女性

(0 歳～ 21 歳現在：福岡県大牟田市)

4. 調査・分析

4.1 使用される待遇表現形式の調査

ここでは、今回行った調査について述べていく。今回の調査は【調査 1】、【調査 2】の 2 回に分けて行った。【調査 1】では藤原 (1978、1979) とその付録である図版から、当該地域で使用される見込みのある形式を抜き出し、筆者の内省から使用できると考えられる表現を加え、各インフォーマントに使用できるか、もしくは大牟田市出身者から聞いたことがあるか尋ねた。【調査 2】では、第三者敬語に着目して、聞き手と話題の人物の組み合わせを考えて作成した標

準語の文を、各インフォーマントに大牟田市方言に翻訳してもらった。以下、それぞれの調査について詳細に述べる。

【調査1】

調査1においては、渡辺（2017）の方針を参考にした。当該地域で使用される見込みのある待遇表現を、藤原（1978、1979）とその付録である図版から抜粋した。例として取り上げる形式の基準を以下のように設ける。

- ① 藤原（1978、1979）の図版において、当該地域、もしくはその周辺に網掛けがなされている。
- ② 当該地域に網掛けはされていないが、近隣地域に網掛けがなされている。または、当該地域を挟む形で飛び地的に網掛けがなされている。
- ③ 網掛けはないが、書籍中に言及がなされている。
- ④ 網掛けもなく、書籍中にも言及はないが、筆者の内省により使用できると考えられる。

2を基準とした理由は、大牟田市は熊本県荒尾市、熊本県玉名郡南関町と接している県境に位置しているため、少なからず熊本県の方言の影響を受けている可能性があると考えたからである。また、近隣地域には大牟田市に隣接しているみやま市の一部（旧三池郡高田町）も含んでいる。以上の基準から、当該地域で使用されると考えられる待遇表現をまとめたものが、以下の表1である。

表1 当該地域で使用される可能性のある形式（藤原（1978、1979）参照）

尊敬形	ゴザル、～レル・ラレル、シャル、サッシャル、ンシャル、ナハル、ナル、ナツス、ナス、イ・サイ、サス、ラス
謙譲形	「拝領」との言い方（「ハイヨー」）
丁寧形	ゴザス、ガンス、ヤンス、アンス、デス、マス

表1にまとめた待遇表現を一つずつ取り上げ、①使用するか②どのような場面で使用するのか③使用はしないが大牟田市出身者から聞いたことがあるのか、の3点についてインフォーマントに尋ねた。

【調査2】

調査2については、尾川（2018）を参考に行った。大牟田市で現在使用される待遇表現の形式について調査1で確認した後、第三者敬語に着目して、聞き手と話題の人物の組み合わせを考えて作成した標準語の文を、大牟田市方言に翻訳してもらった。また、無生物や動物、あるいは赤ちゃんのような明らかに目下の人物に待遇表現を使用できるか追加で質問を行った。

4.2 調査結果による分析・考察

調査1により使用が確認された形式は以下の表2のとおりである。

表2 使用が確認された形式

インフォーマント	/-nahar/ (ナハル)	/-(r)as/ (アス・ラス)	/-haiyo/ (ハイヨー)	/-mas/ (マス)	/-des/ (デス)
A	○	○	×	×	×
B	○	○	○	○	×
C	○	○	×	×	○
D	○	○	×	×	×
E	×	○	×	×	×
F	×	○	×	×	×

面接調査により、現在、大牟田市では /-nahar-/, /-(r)as-/, /-haiyo-/, /-mas-/, /-des-/ の5形式が存在していることが分かった。これらの形式以外にも出身地が互いに近いインフォーマントC、D、Fから /-nahar-/ (ナハル) と同じ意味で /-nasar-/ (ナサル) の形式を使用するとの回答が得られた。このことから、大牟田市には /-nahar-/ の他に /-nasar-/ の形式が存在していると考えられる。これらについては5節において、後述する。

表3 自身は使用しないが、大牟田市出身者から聞いたことがある形式

インフォーマント	シャル・サッシャル	ンシャル	ナハル	ハイヨー	ゴザス	デス	マス
A	×	×	◎	○	○	○	○
B	×	×	◎	◎	×	○	◎
C	○	×	◎	○	×	◎	○
D	×	×	◎	○	×	○	○

E	○	○	○	○	×	×	×
F	○	○	○	×	×	○	×

調査1から「自身は使用しないが、大牟田市出身者から聞いたことがある形式」をまとめると、表3のとおりである。(表の記号は、◎→自身が使用している、○→聞いたことがある、×→聞いたことがない、ことをそれぞれ示している。) 尋ねた形式以外にも、インフォーマント A、B から「カンモ、バンモ、タンモ」という形式をよく聞いていたという回答が得られた。この証言から、かつて大牟田市に「カンモ、バンモ、タンモ」という待遇表現が存在していたことがうかがえる。

以降の節では、調査によって大牟田市で現在も使用されている、もしくはかつて使用されていたと考えられる待遇表現のそれぞれの形式について、用法についての詳細と世代差について言及する。まず、5節で大牟田市において、現在でもよく使用されている形式について述べ、その後の6節で現在の大牟田市では使用している人物が少ない形式について述べる。また、調査2の結果については、用法、世代差のそれぞれに含まれている。世代についての言及がない場合は、待遇表現の形式を使用する人に共通した内省であるということを意味している。

5. 大牟田市において現在もよく使用されている形式

ここでは、今回の調査の結果、現在もよく使用されていると分かった待遇表現の形式である /-nahar-/、/(r)as-/ について、世代差と用法の観点からそれぞれ詳しく述べていく。

5.1 /-nahar-/

5.1.1 世代差

調査を通して、/-nahar-/ の使用には世代によって違いがあることが分かった。ここでは /-nahar-/ のインフォーマントごとの使用状況と世代差について述べていく。

・インフォーマント A (70代女性)

話し相手に第三者のことを話す場合、第三者が目上の場合には /-nahar-/ 形式を必ず使用するとのことだった。しかし、会話の中でより丁寧な表現を行う際は、

/-nahar-/ 形式ではなく、標準語の敬語を使用するという認識があった。一方、第三者が対等、目下の場合には /-nahar-/ 形式は使用しない。

また、「赤ちゃんが寝とんナハルね。」(赤ちゃんが寝ているね。)のように、明らかな目下である赤ちゃんや「犬が歩いてとんナハルね。」(犬が歩いているね。)のように、犬などの動物にも /-nahar-/ 形式が使えるとのことだった。

・インフォーマント B (50 代男性)

話し相手に第三者のことを話す場合、第三者が目上の場合に /-nahar-/ 形式を使用する。しかし、第三者が例えば目上だとしても嫌いな相手、もしくは尊敬できない相手であったら /-nahar-/ 形式は使用せず、大牟田市において敬意が少し低い丁寧表現である /-(r)as-/ 形式を使用するとのことであった。インフォーマント B は方言を使い続けて、これからも守っていききたいという意識が強いため、会話の中でより丁寧な表現を行う際も /-nahar-/ 形式を使用するという。

また、明らかな目下である赤ちゃんのような人物や、動物にも /-nahar-/ 形式は使用可能とのことだった。

・インフォーマント C・インフォーマント D (40 代女性)

会話に出てくる第三者が年上の場合、基本的には /-nahar-/ 形式を使用することだった。しかし、両者とも幼いころは /-nahar-/ 形式と使用方法が同じ /-nasar-/ 形式のみを使用していたと話していた。

一方、/-nahar-/ 形式を赤ちゃんのような明らかな目下や動物に使用するか尋ねたところ、明らかな目下の人物には「赤ちゃんが寝とんナハルね。」(赤ちゃんが寝ているね。)のように使用できるが、「犬が歩いてとんナハルね。」(犬が歩いているね。)のように動物には使用できないとのことだった。

・インフォーマント E・インフォーマント F (20 代女性)

/-nahar-/ 形式について尋ねると、インフォーマント E は自身が使用することはないが聞いたことはあると答えた。一方、インフォーマント F は聞いたことはあるが、/-nahar-/ 形式より /-nasar-/ 形式がより馴染みがあり、自身の周囲からよく聞くとのことだった。しかし、インフォーマント F 自身は /-nahar-/ 形式、/-nasar-/ 形式を使用しないと回答していた。

今回の調査において、70 代女性は相手に目上の第三者のことを話す際、必

ず /-nahar-/ 形式を使用していたが、世代が下がるにしたがって使用頻度が低くなり、20代になると /-nahar-/ 形式を使用しないという結果が得られた。また、基本的により丁寧な表現をしなければならない改まった場や、非常に高い敬意を表す場合は、/-nahar-/ 形式を使用せず、標準語の敬語で話すという傾向が見られた。

5.1.2 用法

/-nahar-/ 形式は、「先生の来ナハッタ。」(先生がいらっしやった。)のように、主に尊敬の意味で用いられる。今回の調査の結果から考えると、/-nahar-/ 形式よりさらに敬意が高い待遇表現がないことから、大牟田市において /-nahar-/ 形式は、目上の人物に対する待遇表現の中で、最も敬意が高い言い方のである。

また、/-nahar-/ 形式は、インフォーマント A と B によると「赤ちゃんの寝んなハルね。」(赤ちゃんが寝ているね。)や、「犬の歩きよんナハルね。」(犬が歩いているね。)のように、動物や、自分自身から見て明らかな目下の人物である赤ちゃんにも使用できるとのことである。この場合の /-nahar-/ 形式は、「尊敬」ではなく、主に「親愛」の意味を込めて使用する形式であるという。この場合、親しみもなく目上でもない相手には使用できない。赤ちゃんに /-nahar-/ 形式を使用する際は、赤ちゃんと二人きりの場面で使用することもできるが、このような場面で使用することは稀であり、基本的に赤ちゃんの親など、他の大人と一緒にいる際に使用する。また、犬のような動物に対して /-nahar-/ 形式を使用する際は、基本的に、小さい子が一緒にいる際に、「犬が歩きよんナハルね。」(犬が歩いているね。)のように語りかけるときに使用する。犬を見かけて独り言のようにつぶやく、もしくは小さい子以外の人物と一緒にいる場合には動物に /-nahar-/ 形式を使用することはない。この点は7節で改めて詳しく述べる。

また、今回の調査において、大牟田市の中でも出身地に近いインフォーマント C、D、F から、/-nahar-/ と同じ使用形式で /-nasar-/ を使用する、もしくは /-nasar-/ 形式が /-nahar-/ 形式よりも馴染みがあるとの回答が得られた。40代のインフォーマント C と D は、若い時には /-nahar-/ 形式は使用せず、/-nasar-/ 形式のみを使用していたとのことだった。/-nahar-/ 形式を使用するようになったのは、インフォーマント C は就職してから、インフォーマント D は嫁いできてからであるという。一方、同じ大牟田市内ではあるが、インフォーマント C、D、

Fと出身地が離れているインフォーマントA、B、Fは /-nasar-/ 形式を聞いたことがないと回答しており、 /-nahar-/ 形式のみを使用する、もしくは聞いたことがあるとのことだった。

これらの回答から、大牟田市内には /-nahar-/、 /-nasar-/ という、意味も用法も同じ2つの待遇表現の形式が存在していると考えられる。九州方言学会編の『九州方言の基礎的研究 改訂版』(1991)によると、 /-nahar-/ 形式は、「豊前、および豊前さかいの筑前、熊本県境の大牟田市とその周辺に行われる。敬意はナサルに匹敵する。」と記述されており、また、 /-nasar-/ 形式については、「筑前・筑後(熊本県境を除く)、敬意は最高。」と述べられている。しかし、今回の調査において出身地が近いインフォーマントC、D、Fが /-nasar-/ を使用すると回答している。このことから、以前、大牟田市では /-nahar-/ 形式のみが見られたが、大牟田市は /-nahar-/ 形式を使用する熊本県と、 /-nasar-/ 形式を使用する大牟田市以外の筑後地域の「接触地域」であるため、現在、徐々に両地域の影響を受け、 /-nahar-/ 形式と /-nasar-/ 形式が存在するようになり、両形式がせめぎ合っていると考えることができる。(以下の地図を参照)



地図引用元：Google マップ

(https://www.google.co.jp/maps/place/%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E7%

9C%8C%E5%A4%A7%E7%89%9F%E7%94%B0%E5%B8%82/@33.039
3192,130.4468487,12.67z/data=!4m5!3m4!1s0x35404e41137bf06d:0x62fc-
c25e6614e60d!8m2!3d33.0302622!4d130.4459852)

5.2 /-(r)as-/

5.2.1 世代差

調査を通して、/-(r)as-/形式には世代ごとに異なる使用形式があることが分かった。まず、世代別の/-(r)as-/形式の使用形式について述べる。

・インフォーマント A (70代女性)

/-(r)as-/形式を使用することができると話していたが、「丁寧さのある表現ではあるが、言葉が綺麗ではなく、好ましい表現ではない」という認識が今回調査したインフォーマントの中で最も強く、目上の人に対して使用すると失礼にあたりと話していた。そのため、/-(r)as-/形式の使用頻度は他のインフォーマントと比較して低い傾向が見られた。聞き手に第三者のことを話す際、第三者が目上の人物である場合は/-(r)as-/形式ではなく、必ず/-(r)ahar-/形式を使用するという。

また、/-(r)as-/形式を「赤ちゃんの寝とラスね。」(赤ちゃんが寝ているね。)のように、明らかな目下の人物や、「犬の歩きよラスね。」(犬が歩いているね。)のように動物にも使用できると回答した。

・インフォーマント B (50代男性)

/-(r)as-/形式に対して「丁寧さはあるが、あまり綺麗な言葉ではない」という認識があったが、70代のインフォーマント A ほど、その認識は強くなかった。そのため、第三者が目上の場合にも/-(r)as-/形式を使用することがあった。具体的には、会話中で話題になっている第三者が尊敬していない目上の人物の場合に/-(r)as-/形式を使用するという。しかし、基本的には会話中の第三者が目上の際は、/-(r)as-/形式は使用しないとのことだった。

また、インフォーマント A と同様、赤ちゃんのように明らかな目下である人物や、犬などの動物にも/-(r)as-/形式が使用可能であると答えていた。それに加えてインフォーマント B は、「どーんと、ふとーか冷蔵庫のすわっとラスたい。」(どんと、大きい冷蔵庫がすわっているよ。)のように無生物にも/-(r)

as-/ が使用できると回答した。この場合は、無生物に待遇表現を使用することで、擬人化した表現である「すわっている」を「強調」しているとのことだった。

・インフォーマント C・インフォーマント D (40 代女性)

/(r)as-/ 形式に対して、「丁寧さはあるが、あまり綺麗な言葉ではない」という認識はあったものの、使用頻度はインフォーマント B より高い傾向が見られた。調査の結果、話し相手が目上で、会話中の第三者も目上の場合 /-(r)as-/ 形式は使用しなかったが、話し相手が対等、目下になった場合は、第三者が目上だとしても /-(r)as-/ 形式のみを使用していた。

また、/(r)as-/ 形式を明らかな目下の人物や、動物、もしくは無生物に使用できるか尋ねたところ、両者とも「赤ちゃんのような明らかな目下には使用できるが、動物、無生物には使用できない。」と回答した。

・インフォーマント E・インフォーマント F (20 代女性)

/(r)as-/ 形式に対して、「丁寧さはあるが、あまり綺麗な言葉ではない」という認識が少しはあったものの、インフォーマントの中では最もその認識が低かった。そのため、会話中の第三者が目上、もしくは会話の相手が目上で第三者も目上の場合でも /-(r)as-/ 形式のみを使用していた。

また、明らかな目下の人物、動物もしくは無生物について /-(r)as-/ 形式が使用できるのか尋ねたところ、インフォーマント E はどれにも使用できないと答えたが、インフォーマント F は全てに使用できると回答した。

調査の結果、どの世代も /-(r)as-/ 形式に対して「丁寧さのある表現ではあるが、あまり綺麗な言葉ではない」という共通認識があることが分かった。しかし、その認識は世代が下がるにつれて低くなっていき、それに伴って /-(r)as-/ 形式の使用頻度が高くなっていく傾向にあることが分かった。また、/(r)as-/ 形式は赤ちゃんのような明らかな目下、動物、もしくは無生物に対しても使用可能である表現であることが明らかとなった。

5.2.2 用法

/(r)as-/ 形式は、「(友達同士のみで話していて) そういえばその話、先生が話しよラシたよ。」(そういえばその話、先生が話されていたよ。) のように、聞き手に第三者のことを話す際に使用する形式である。この形式は、第三者が

目上の人物の場合に使用し、対等、目下の人物の場合には基本的に使用しない。しかし、第三者が対等、目下の相手の場合でも、そこまで親しくない相手の場合には /-(r)as-/ 形式を使用することがある。

今回の調査結果から、/-(r)as-/ 形式は赤ちゃんのような明らかな目下、動物、もしくは無生物にも使用できる形式であることが分かった。今回使用すると回答したインフォーマントによると、明らかな目下、動物に /-(r)as-/ 形式を使用する際は、「丁寧」の意味ではなく、「親愛」の意味合いが強いとのことだった。一方、無生物に /-(r)as-/ 形式を使用する場合、使用すると回答したインフォーマント B によると、無生物を擬人化して表現し、/-(r)as-/ 形式によって擬人化した表現を「強調」とのことである。明らかな目下、動物、もしくは無生物に /-(r)as-/ 形式を使用する場合は特に世代差は見られず、特定の物に親しみがあるかなどの、「個人による認識の違い」が関係しているようだった。

以上のことから、/naha-/ 形式、/-(r)as-/ 形式は、主に目上の人物に使用する、「尊敬」の意味を表す待遇表現であり、また、両形式とも赤ちゃんのような明らかな目下である人物や、動物などにも使用することができる。この場合は、「尊敬」ではなく「親愛」の意味を示す。このことについては、後に 7 節で詳しく述べる。

6. 大牟田市でかつて使用されていたと考えられる表現

ここでは、今回の調査の結果、一人のみ使用すると回答した、もしくは誰も使用したことがないと答えたが、聞いたことがあるとの回答を得られた待遇表現について、それぞれ使用形式と世代差の観点から見ていく。

6.1 /-haiyo-/

6.1.1 用法

/-haiyo-/ は、「拝領」という言葉が転じてできた待遇表現であると考えられており、「下さい、頂戴する」という意味を持っている。なお、「ハイヨ」の「ヨ」は、終助詞ヨの併用であるとも考えられている。今回の調査でも、/-haiyo-/ の使用方法について、唯一この待遇表現を使用すると答えたインフォーマント B、または、自身は使用しないが、使用方法は分かると回答したインフォーマント A から例示してもらった。「鞆を取ってハイヨ。」(鞆を取って下さい。)や「おまんじゅうハイヨ。」(おまんじゅう下さい。)のように、/-haiyo-/ を、本動詞・補助動詞の両方で使用することであった。

また、インフォーマント B によると、*/-haiyo-/* は主に年上の人に対して使用する丁寧な表現であるという。しかし、場合によっては対等の人物や目下の人物に使用しても違和感がなく使用できるとのことで、*/-haiyo-/* の形式は、目上から目下まで幅広く使うことのできる待遇表現であるということが今回の調査からうかがえた。

6.1.2 世代差

今回の調査結果では、*/-haiyo-/* 形式を使用すると回答したのは 50 代のインフォーマント B のみであった。一方、70 代のインフォーマント A は「自身は使用しないが、意味と使用方法は分かる。」と回答した。また、40 代のインフォーマント C と D は「自身は使用しないが、意味は分かる。」とのことだった。使用しているイメージがある世代について、意味は分かるという回答した各インフォーマントに尋ねると、70 代のインフォーマント A は、「現在の 80～90 代の人を使用しているイメージ」、40 代のインフォーマント C と D は、「大正、昭和初期生まれのお年寄りが使用しているイメージ」と答えた。インフォーマント A、C、D の証言から、*/-haiyo-/* 形式は、大正時代～昭和時代初期生まれの 80 代以上の人を使用している形式であると推測できる。主に使用していた世代ではない 50 代のインフォーマント B は、昔からの方言を使い続けることで守っていかなくてはいけないという意識が強い人物であるため、*/-haiyo-/* という形式を積極的に使用しているのだと思われる。

一方、20 代であるインフォーマント E と F は、「お年寄りが会話の中で話しているのを聞いたことはあるが、意味は分からない。」とのことだった。年齢層が下るほど */-haiyo-/* に対する認識が薄くなってきていることから、この待遇表現は衰退の一途をたどっていると考えられる。

6.2 */-des-/*

6.2.1 用法

この */-des-/* 形式は、(先生に対して)「(同級生の) A が今から来るデスよ。」(A が今から来ますよ。) や、「花の赤かデス。」(花が赤いです。) のように、用言の終止連体形に接続し、目上の聞き手に対して、対等・目下の人について話すときに使用する表現である。この */-des-/* 形式も、聞き手に第三者のことを話す際に使用する。

6.2.2 世代差

今回の調査では、使用すると回答したのは40代のインフォーマントCのみであった。インフォーマントA、B、D、Fは使用しないが聞いたことがあると答え、20代のインフォーマントEは聞いたことがないと回答した。インフォーマントDとFにどのような人が使用するイメージがあるか尋ねたところ、インフォーマントDは、「近所のお年寄りが使用しているイメージ」、インフォーマントFは「お年寄り、特に男性が使用しているイメージがある」との回答が得られた。筆者も、*/-des-/*形式については男性の高齢者がよく使用しているイメージがある。大牟田市方言において*/-des-/*形式の使用には、性差も関係している可能性がある。

高齢者ではないインフォーマントCが*/-des-/*形式を使用している理由については、職業が関係していると思われる。インフォーマントCの職業は高齢者を主に担当している看護師であり、日頃から高齢者に接する機会が他のインフォーマントと比較して多い傾向がある。もちろん男性の高齢者に接する機会も多く、「お年寄りには方言で話した方が、親近感を持ってもらえる。」と発言していたことから、*/-des-/*形式を使用するようになったのだと考えられる。

聞いたことがないと答えた20代のインフォーマントEに至っては、*/-des-/*形式について、「聞いたことはあるが、日本語がおかしいと思っていた。」と話していた。また、同じ20代のインフォーマントFは、「聞いたことがあるが、普段ほとんど耳にすることがない。」と答えていた。若年層において、*/-des-/*をほとんど耳にしたことがなく、丁寧さを表すときは標準語を使用していることから、*/-des-/*のような大牟田市における丁寧の待遇表現は衰退していると考えられる。

6.3 */-gozas-/*

6.3.1 用法

*/-gozas-/*は、「よゴザス」のような形で使用する、丁寧の表現である。「ゴザス」単体で、「ございます」という意味を表す。藤原(1979)では、福岡県の筑前東部では、「ヨソニ イッテモ タマガルゴト ゴザス。」(よそに行ってもおどろくようでございます。の「ゴザス」形、「イーエ。アリガト ゴザシタ。」(いいえ。ありがとうございました。の「ゴザシ」形が存在していると述べられている。今回の調査において、幼少期に*/-gozas-/*形式を聞いたことがあると答えた70代の女性に例を挙げてもらったが、「ゴザス」形のみの使用しか見ら

れなかった。

6.3.2 世代差

今回の調査では今でも使用すると答えた人はいなかった。しかし、70代のインフォーマント A によると、自身が幼少期の頃、祖母など、お年寄りたちが使用していたのを耳にしたことがあると話していた。自身の両親世代になると使用していなかったと答えたことと、他のインフォーマントが全く聞いたことがないと回答していたことから、大牟田市において、以前は存在していた /-gozas-/ 形式は、現在、消滅してしまった待遇表現であると考えられる。

6.4 /-mas-/

6.4.1 用法

/-mas-/ は丁寧形の待遇表現であり、「マス」の形では使用せず、主に「すみマッセン」のように「マッセン」という形で使用される。

今回の調査結果では、「(何かを取ってもらいたい状況の時に) すんマッセンばってん、あれば取ってもらってよかですか。」(すみませんが、あれを取ってもらってもいいですか。) のように「マッセン」の形のみで使用していた。使用する、聞いたことはないが意味は分かると答えたインフォーマントに例を示してもらおうと、全員「すんマッセンばってん」の形で使用していた。インフォーマントによると、「すみマッセン」ではなく、「すんマッセン」の形で必ず使用するとのことであった。このことから、現在の_{大牟田市}において /-mas-/ は「すんマッセンばってん」という形で、決まり文句的に使用されるようである。

6.4.2 世代差

この /-mas-/ 形式を使用すると答えたのは、50代のインフォーマント B のみであった。20代のインフォーマントを除く40代、70代は「使用しないが聞いたことがある。」と回答していた。40代のインフォーマント D は「自分の祖母が使っていた。」と回答している。筆者自身も高年層が使用している場面を何度も目にしたことがある。その時もやはり、「すんマッセンばってん」と決まり文句的に使用していた。

20代のインフォーマント 2人はこの表現を「聞いたことがない」と回答している。同じ丁寧形である /-des-/ と同様、若年層の認識がほとんどないことから、/-mas-/ 形式も衰退していると考えられる。

6.5 調査項目以外の待遇表現

今回調査した項目以外に、インフォーマント A と B から、大牟田市には「カンモ」「バンモ」「タンモ」という待遇表現が存在するとの回答を得た。また、藤原(1979)によると、「大牟田弁には「コラシタ」と並んで「コラッサル」もある」とのことだったが、今回の調査で尋ねると、どのインフォーマントも全く聞いたことがないと回答した。このことから、「コラッサル」という表現は、藤原が調査した時には見られたが、今では完全に大牟田市から消滅した表現である可能性が考えられる。そのため、この節では「コラッサル」については述べないことにする。そこで、以下ではインフォーマントから回答が得られた「カンモ」「バンモ」「タンモ」という待遇表現について、用法と世代差の観点から述べていく。

6.5.1 「カンモ」「バンモ」「タンモ」の用法

以下、松田(1993)が『筑後方言辞典』において、「カンモ」「バンモ」「タンモ」について述べていることを要約したものである。

「カンモ」の「カ」は疑問詞の「カナ」(そうカナ)、「カネ」(そうカネ)が転じた言葉であり、「ン」は呼びかけの「ノウ」の転であると言われている。また、「モ」は呼びかけの「モシ」の略であるという。これらのことから「カンモ」は主に「～ですか。」という疑問の意味で用いられ、語尾に付いて「もう行かれたカンモ。」(もう行かれたのですか。)、 「ほんなこつカンモ。」(本当ですか。)のように使用される。

「バンモ」の「バン」については、元は「バナ」であった終助詞が変化したものだと考えられている。「バナ」は「～ですよ。」という意味を表す「ワイ」が変化した言葉だと言われており、「バナ」の「ナ」は念を押す終助詞である。「バナ」が変化して「バン」になり、それに呼びかけの「モシ」が略された「モ」が接続されて、「バンモ」となった。「バンモ」は「バナ」と同じく、「～ですよ。」という意味を表す言葉であり、「言うバンモ。」(言いますよ。)のように使用する。

「タンモ」の「タン」は、現在九州でよく使用されている「タイ」が変化してできた言葉であり、それに呼びかけの「モシ」の略である「モシ」が接続されてできた丁寧語である。

「タンモ」は「～ですよ。～ますよ。」の意味で用いられ、「そうタンモ。」(そうですね。)、 「良かろうタンモ。」(良いでしょうよ。)のように使用される。

6.5.2 「カンモ」「バンモ」「タンモ」の世代差

今回の調査では使用したことがある人はいなかったが、聞いたことのあるインフォーマントは多く、現在でも80代以上の高齢者から聞くことがあると答えた人がいた。「カンモ」に関しては20代を除く4人のインフォーマントが聞いたことがあると答えたが、「タンモ」、「バンモ」についてはインフォーマントAとBのみが聞いたことがあると回答した。インフォーマントAとBは、自身では使用しないものの、「カンモ」「バンモ」「タンモ」の全ての意味が分かると答えた。しかし、「バンモ」、「タンモ」に関しては、大方意味は同じだが、ニュアンスが違うため使い分けがなされていたとの内省を得た。しかし、どのような使い分けがなされていたのか、はっきりと分からないとのことだった。40代のインフォーマントCとDは「カンモ」のみ分かると答え、20代のインフォーマントEとFは全て分からないと答えたことから、「カンモ」「バンモ」「タンモ」は現在の大牟田市において、80代以上の高齢者は使用するが、世代が下がるにつれて認識されなくなる、衰退しつつある待遇表現であるということがうかがえる。

7. まとめと今後の課題

福岡県大牟田市で現在使用されている待遇表現は、調査の結果、/nahar-/、/(r)as-/、/haiyo-/、/mas-/、/des-/の5形式であった。また、今回の調査において使用は見られなかったが、幼少期など、かつて大牟田市において聞いたことがある待遇表現として回答が得られたのは、「カンモ」「バンモ」「タンモ」の3形式であった。

大牟田市において、現在でもよく使用される待遇表現は、先行研究にもあるように、/(r)as-/形式、/nahar-/形式の2つである。/nahar-/形式は、主に「尊敬」の意味で用いられ、大牟田市における待遇表現の中では最も敬意が高い表現である。また、/nahar-/形式は明らかな目下である人物や動物にも使用可能である。/nahar-/形式を明らかな目下の人物や動物に使用する際は、「尊敬」ではなく、「親愛」の意味で用いられる。一方、/nahar-/と同じ用法で/nasar-/という表現も見られる。大牟田市においては/nahar-/形式のみを使用する東の地域と、/nasar-/形式を使用する頻度が高い西の地域が見られたため、大牟田市は/nahar-/形式と、/nasar-/形式の接触地域であることが分かった。若年層においては尊敬の意味を表す言葉として標準語を使用しているため、/nahar-/形式、もしくは/nasar-/形式は衰退の一途をたどっていると考えられる。

/-(r)as-/形式は、会話中で相手に第三者のことを説明する際に用いる、第三者敬語である。第三者が目上の際に使用することが多いが、そこまで親しくない対等、もしくは目下の人物に対しても使用することが可能である。今回の調査では、大牟田市において、「尊敬表現ではあるが、あまり綺麗な言葉とは言えない」という共通認識が存在した。世代が上がるほどその認識は強く、それに伴って使用頻度も減っていく傾向があった。一方、/-(r)as-/形式は/-nahar-/形式と同様、赤ちゃんのように明らかな目下である人物や、動物に使用することができる。また、無生物にも使用できる場合がある。/-(r)as-/形式を明らかな目下である人物や、動物に使用する場合は、/-nahar-/形式と同様、「尊敬」ではなく「親愛」の意味で用いる。また、無生物に使用する場合は、無生物を擬人化し、擬人化した表現に待遇表現を使用することで、「強調」の意味を表す、とのことだった。

今回の調査の結果、大牟田市において現在でも使用されている待遇表現である /-(r)as-/形式、および /-nahar-/形式には、「両形式とも元は尊敬の意味を表す形式であるが、目下の人物に使用すると親愛の意味を表すことができる。」という共通点があるということが分かった。大牟田市において /-nahar-/形式が /-(r)as-/形式と比較して敬意が高いという違いはあるが、使用形式においてこのような共通点が見られる。待遇表現で「親愛」の意味を表す、という例を考えると、明らかな目下である赤ちゃんが寝ている時に、/-nahar-/形式を使用して、「赤ちゃんが寝とんナハルね。」もしくは、/-(r)as-/形式を使用して、「赤ちゃんが寝とラスね。」というように使用し、「親愛」の意味を表す。明らかな目下である赤ちゃんと2人だけの場合でも使用できないことはなく、必ずしも赤ちゃんの両親などへの敬意を表している訳ではないことが分かる。これらの表現を標準語に直訳すると、「赤ちゃんが寝ていらっしやるね。」という、普通は使用されない文になる。標準語において、/-nahar-/形式、もしくは /-(r)as-/形式のように、元は「尊敬」の意味を示す待遇表現が、目下の人物に使用することで「親愛」の意味を表すという現象は見受けられない。元は「尊敬」の意味でありながら、目下の人物に使用することで「親愛」の意味になるというのは、大牟田市における待遇表現の特徴であると言えるだろう。

また、今回の調査の結果、大牟田市において、現在ほとんど使用されていない /-haiyo-/、/-des-/、/-mas-/、もしくは現在使用されなくなった、「カンモ」「バンモ」「タンモ」という待遇表現が存在していることが分かった。/-haiyo-/、/-des-/、/-mas-/については、今回の調査において、使用するインフォーマントは各形

式1人のみであった。使用すると答えた以外のインフォーマントは、聞いたことがあるが使用しないと回答していたため、今後大牟田市で /-haiyo-/、 /-des-/、 /-mas-/ という待遇表現の形式は衰退していくと考えられる。また、「カンモ」「バンモ」「タンモ」という待遇表現については、今回の調査において20代の女性2人以外のインフォーマントは聞いたことがあると回答したが、3つの形式全てを知っていると回答したのは70代、50代のインフォーマントのみであり、若年層になるほど3つの形式とも知っている確率は少なくなっていた。若年層が全く知らないと回答していたことから、今後、大牟田市において「カンモ」「タンモ」「バンモ」という表現は忘れられていくであろう。

以上が、今回福岡県大牟田市における待遇表現の調査で分かったことである。今回の調査では、20代から70代のインフォーマント6名に調査を行ったが、インフォーマントの人数はまだ十分と言うことはできず、さらにインフォーマントを増やして調査する必要があるため、今回の調査結果を大牟田市における待遇表現の使用状況であると一概には言うことができない。また、今回の調査で分かった「カンモ」「バンモ」「タンモ」の形式を今でも使用するのが80代以上の高年層であるため、80代以上の人物に詳しく調査を行う必要がある。さらに、今回 /-nahar-/ 形式と同じ使用形式の /-nasar-/ という形式があることが分かった。今回の調査では、 /-nahar-/ 形式のみを使用する地域と、 /-nasar-/ 形式を頻繁に使用する地域があり、 /-nahar-/ 形式と /-nasar-/ 形式の使用には地域差がある可能性が考えられたが、なぜ使用に地域差が生まれたのかということは分からなかった。今後、歴史的背景などを視野に入れ、大牟田市における /-nahar-/ 形式と /-nasar-/ 形式の使用の地域差について考えていく必要がある。

参考文献

- 尾川慧 (2018) 「熊本県葦北郡芦北町方言における待遇表現」『国文研究』第63号 65-86
神部宏泰 (1992) 『九州方言の表現論的研究』和泉書院
九州方言学会 (1991) 『九州方言の基礎的研究 改訂版』風間書房
藤原与一 (1978) 『方言敬語法の研究 昭和日本語方言の総合的研究 第一巻』春陽堂
藤原与一 (1979) 『方言敬語法の研究 昭和日本語方言の総合的研究 第二巻』春陽堂
松田康夫 (1993) 『筑後方言辞典』久留米郷土研究会
渡辺千尋 (2017) 「熊本県菊池郡大津町方言における待遇表現」『国文研究』第62号 63-82

参考 URL

「大牟田市ホームページ」 最終アクセス日 2019年1月6日

http://www.city.omuta.lg.jp/cp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=5&class_set_id=11&class_id=943

「旅行のとも、Zentech」 最終アクセス日 2019年1月6日

https://www.travel-zentech.jp/japan/Fukuoka/Administrative_divisions_map_of_Fukuoka_pref.htm

謝辞

本論文を執筆するにあたり、お忙しい中協力してくださった6名のインフォーマントの方々に心より感謝申し上げます。また、校正・指導にあたってくださった小川晋史先生に深く感謝申し上げます。